

サンタのおじさんから1人ひとりにプレゼントが手渡され「ありがとう…」と大喜びの園児たち

サンタのおじさん プレゼントありがとう

十三保育所（高橋浩子所長 心得）に二十三日、サンタクロースのおじさんが訪れ、子供たちにひと足早いクリスマスプレゼントを贈りました。子供たちは、「サンタのおじさんは、どこから来るのかな?」とキョロ、キョロ。サンタのおじさんが来たぞ!」の声に会場はシーンと静まり

かえりました。サンタクロースの衣装に身を包み、プレゼントの入った大きな袋を担いだ三重真村長が訪れると、待ち兼ねていた子供たちから大きな拍手が沸きました。

「一人ひとりにプレゼントを手渡した三重村長は、「また、来年も来ますから、元気でいい子にしてください!」とあいさつをすると、子供たちは「ハイ!」と大きな声で元氣よく約束していました。このあと、子供たちはサンタクロースのおじさんと記念写真を撮り、歌やフォークダンスなどを楽しんでいました。

今月の主な記事

- あすなろのつどい……………2
- 知事と語るつどい……………3
- 企業誘致「津軽テクニカ」と基本協定を締結……………4
- 十三小記念式典……………5
- 歴史漫歩……………6
- おしらせ……………7
- 戸籍の窓……………8



キャンドルで静かにサンタのおじさんを待ちました

村民ふれあいひろば あすなるのつどい



講演する野上四郎氏

手をとりあつて ひろめよう福祉の心

村民ふれあいひろば「あすなるのつどい」が、十二月十五日午前十時から、市浦村コミュニティセンターに村民百八十人を集めて開催しました。

このつどいは、市浦村社会福祉協議会、同老人クラブ連合会、同身体障害者福祉会がそれぞれ独立して開いていたのですが、社会福祉法制度化記念事業として、三年前から一堂に会して開催しているものです。

つどいでは、成田永吉社協副会長が開会のあいさつをし、また、主催者を代表して青山又二社協会長が「社会福祉

向上をめざして、お互いが固く手をにぎりあい、みんなが幸せに暮らせる地域社会をつくらう。」とあいさつしました。

このあと、共同募金運動実施三十五周年記念特別顕彰者に対する表彰状の伝達に続いて、被表彰者を代表して木村栄さんが謝辞を述べました。

方福祉事務所千葉寛所長、三重県市浦村長、浜田春土村議会議員（議長代理）柏谷秀一教育長らが、次々祝辞を述べ、「助けあう思いやりの心を大切に、相手の気持ちになつて行

動することが必要だ。健康なくして福祉は望めない。みんなが幸せになることは、まず自分が健康で長生きをしなければならぬ。」と激励しました。

また「地域福祉のあり方」をテーマに講演した中里・内海療護園長野上四郎講師は「福祉サービスは、お金を出してでも買求めるものだが、お金がある、なしによつて差別されるものではない。必要な福祉を受けるためには、地域住民一人一人の参加による活動が最良の方法である。」と結びました。

昼食をはさんで、午後からは、村内各地区婦人会による芸能発表があり、なごやかで楽しい一日を過ごしていました。



幸せな地域社会をつくらうと語り合ったあすなるのつどい



共同募金功労者に表彰の伝達が行われました。

年記念特別顕彰、次の人たちが表彰されました。

■共同募金会十五年以上奉仕功労（五十七年度）

- 石沢ミツエ、相川みづゑ、田中ミ、村上さや子、湯浅うめ、石岡ツルエ、桑野ミナ、黒川ミユ、竹谷まよ、三上ミ、工藤ニエ、工藤ツヨ、三浦シキ、三浦ア子、柏谷チヨ、木村栄、青山作左衛門、奈良義美、三和ラン子、三上サキ

- 小山内キヨ、小山あぐり、湯浅恵美子、安田喜美代、中島八重、加納アミエ、高田静子、葛西ユズ、成田つとむ、中山ツワ、成田貞子、高木ムチエ、山田トキ、藤田きん子、岡本ナヨ、伊南きさ、成田トキ、佐々木きさ、三和タエ、秋田谷いさ、三上リツ、谷サタ、佐藤アヤイ。

総務に越野さん

副総務には葛西さんを選任

―民生（児童）委員決まる―



越野清志さん



葛西美代さん

で行われ、当日の組織会では総務に越野清志さん、副総務には葛西美代さんが選ばれました。

十二月一日付で、新しい民生（児童）委員が決まりました。

- 太田地区 青山ミエ。
- 桂川地区 越野清志。
- 隘元地区 村上ヨシエ、葛西美代、石岡ツルエ。
- 磯松地区 新岡健男。
- 十三地区 湯浅信一、工藤嘉四蔵、熊浦ミナ、久保田久子。

厚生大臣ならびに県知事からの辞令伝達式は、十二月五日、市浦村基幹集落センター

出席した人たち



成田 藍元
永吉さん



藍元
山田つせ子さん



十三
工藤章二郎さん



太田
下沢ハツヨ子さん



十三
若山 恭次さん



藍元
藤西敬太郎さん



相内
磯松 治さん



相内
小笠原金通さん



十三
八木沢良藏さん



相内
佐藤 竹治さん

知事と語るつどい

住民代表15人と懇談



一人ひとりの要望意見に北村知事から適切に説明がありました

農、漁業・畜産
観光開発など要望

第六十四回「知事と語るつどい」は、十一月二十九日十二時三十分から市浦村コミュニティセンターで開かれまし

北村知事は「卒直な意見を交わすことは効果があり、みなさんの意見は県政に取り入れていきたい」とあいさつした後、懇談会に移りました。懇談会では、老人福祉、医療設備の充実、十三湖シジミの異常へい死問題、国有林の活用など多岐にわたつてそ

は、シジミ貝が海水へい死するとは考えられない。小川原湖の場合もつと塩度が高いはず。生体、抵抗力の関係でもうなつとも思われるので、解明調査する必要がある。十三湖前湖の高度利用策は、とりあえず十万分のしゅんせつを手始めに段階的に考えた」と説明しました。



相内
吉田 知子さん



十三
相内 利雄さん

この日のつどいには、県側から北村正武知事、三十四郎企画部次長、広報県民課長のほか県出先機関関係者ら二十人、地元からは三重賣村長はじめ、漁業、農業、畜産、商業、主婦など各層代表者十五人が出席し、活発に意見を交換しました。

北村知事は、つどい開会前に、肉牛肥育センター、老人生きがいのセンターなどを見学し、陶芸づくりを楽しまし、たお年寄りたちに「元気がい

観光施設の整備については「中島遊歩道橋架設は間もなく実現すると聞いており、観光化にはいい構想だ。小泊児童間の国道も五十九年秋には供用でき、市浦村への観光客増も期待できる。観光牧場については、村当局とも十分研究してみる必要がある。」「国有林活用については、国土利用の面からも積極的に検討しており、林間開放などは畜産業の規模拡大にもつなげるので、期待に治うよう今後努力する」と一人ひとりの要望に適切に答えていました。



協元
黒川 敏さん



十三
小山あぐりさん



相内
成田 美子さん

企業誘致「津軽テクニカ」と

基本協定を締結

二月から操業開始

村では、企業の誘致をすすめていたが、五所川原市に本社がある津軽芝罘音響株式会社に、桜井可清社長・資本金三千円)との間に、工場立地に関する基本協定が合意し、十一月八日協定書の取り交わしをします。

これまでは、廃校になった校舎や集会所などを増改築として企業や貸し付ける方法をとってきましたが、旧施設が老朽化していること、企業誘致には増築や強風などで、大きな穴となっていました。村では、地理的条件を克服するために、思い切った奨励施策が必要)と、「ふるさと定住対策条例)や「工場誘致奨励条例)などを整備して、会社側と精力的に交渉をすすめてきました。

現在、事業費二千七百万円を投資して、村有地の松林を造成、五百平方メートルの工場建設に着手しており、来年二月の操業にむけて準備を怠りません。現地につくる会社は「津軽

テクニカ(佐野実代表)で、十一月二十一日から従業員を募集し、十一月十六日に面接採用を決定しています。

工場立地に関する基本協定書の締結は、津軽芝罘音響株式会社が行われ、会社側からは桜井可清社長、佐野実工場長、村側からは、三重實村長、三上常一総務課長、高松隆三企画財政課長が出席、それぞれ署名押印の上、協定書の取り交わしを終えました。

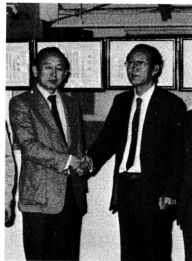
基本協定では、村内に蓄積している多様な知識と技術及び技能を積極的に活用し、産業の振興と雇用機会の創出をはかるとともに、住民生活の

向上安定を促進し、立地企業の経営安定をめざしています。業務内容は、電子音響機器の生産組立てが主なものとなりますが、村の委託をうけて、会社は電子音響機器の生産組立ての発注と指導を行うこととなります。

また、会社の経営安定、工場の建設規模など、将来的に業務が円滑に行われるよう、村が可能な範囲でバックアップすることにしていますが、生産設備、その他備品等についてはすべて会社が負担することになっています。

村では、十二月定例村議会でも「産業振興センター設置条例)も議決しておりますが、地場産業の振興と合わせて、企業の育成と雇用機会の創出をはかり、二百人雇用へはすみをつきたいとしています。

人口の高齢化では、県内でも四番目にランクされていますが、お年寄りの健康保持と具体的な生きがい対策が望まれています。



基本協定書の締結を終え握手する桜井社長と三重村長

生きがい求め 老後を楽しく 学習熱高まる



老後を楽しく過ごすための学習や親睦を深めています

現在、村内に住む六十五歳以上のお年寄りは五百六十七人。これは全人口の十三・五%にあたりますが、六十歳以上になると、一千三百五十七人で、三十二・二%にも上ります。

市浦村老人クラブ連合会(村元富弥会長、会員四百六十八人)では、健やかに老いるための健康教育と、老後の生活に安定と満足感を得られるよう学習、趣味、スポーツ等を通じて相互の理解と親睦を深めるために、ことしも「老

老人ことぶき大学学習計画表

| 期 | 日 | 場所 | 学習内容 | 講師 |
|---|-------------|--------------|------------------------------------|--------------------------|
| 1 | 月10日 (火) | 協元老人生きがいセンター | 講話「趣味と陶芸」 講話「健康管理」 芸能大会 | 成田吉光先生 鎌田保健樹 |
| 1 | 月24日 (火) | コミュニティーセンター | 講話「浄土を語る」 「交通安全教室」 映画鑑賞 | 平井信作先生 金木肇幸著 教育委員会 |
| 2 | 月15日 (火) | コミュニティーセンター | 講話「幼児教育と老人の役割」 健康管理 レクリエーション | 企画財政課長 高松隆三 佐藤保健樹 |
| 2 | 月28日 (火) | 磯松公民館 | キンギョわふたつ レクリエーション | 太田小教頭 |
| 3 | 月5日 (日) | コミュニティーセンター | 反問 会 式 おはこ大会 | 学級委員会 民生課 |

・開講時間は、いずれも午前10時から午後3時まで。

「老人ことぶき大学」を開発して「老人ことぶき大学」は、十一月十五日に開講し、来年三月五日閉講する予定です。十一月十四日は市浦村コミニティーセンターに、百二十人のお年寄りが集まり、第三回目の講話を開講し、五所川原法務局佐々木寛支局長を講師に迎え「身近かな法律」について学び、午後からは「わが郷土の歴史」について、佐藤麻治さんの講話、ゲーム、マスターズなどを楽しみました。

老人クラブでは、お年寄りばかりだけでなく、若い人たちの積極的な参加を呼びかけています。

来年二月までの学習計画は次のとおりです。

十三小で記念式典

110周年で決意も新たに

十三小学校（沢田茂隆校長・児童数一〇三人）の創立百十周年記念式典は、十一月十五日正午から、同校体育館に集まったPTA関係者約百人が出席して盛大に行われました。同校は、明治六年八月一日、第十四中学区十三小学校として濰迎寺に開校されました。当時、工藤兵衛氏を校長に児童数三十名でスタートしたものですが、明治七年二月四日文部省より小学校設立の指令があり、明治八年、旧町奉行倉庫を学舎として使用、床

にむらぬ敷き平机で学習しました。明治十一年には、児童数が百人となり、校舎を新築しましたが、明治二十三年には校舎を焼失し、初代校主の工藤兵衛氏宅で学習しました。昭和二十二年、新制度六・三制の実施により、十三中学校の授業を開始、昭和二十五年、総経費三百万円で新校舎の新築に着工し、翌年一月二十七日落成しました。昭和三十年、旧三村合併に

より、市浦村立十三小学校となり、昭和四十九年には、鉄筋コンクリート二階建ての立派な校舎が完成しました。西北五地方では最も古い歴史を誇る同校は、昭和五十七年度までに、二千百十六名の卒業生を送り出しています。また、昭和三十九年には野島および白鳥の保護、観察に努力したことで、第十七回東奥賞を受賞しており、二十二年後の現在も観察が続けられ、子供たちと白鳥との友情がはぐくまれていきます。

もう一つの甲子園で友情深める



「ふれあいと友情を大切にしたい。」と語る工藤広行君

「過日はたぐさんの美味しいりんごをお送りいただきましてありがとうございました。これまで何度か会に出ているのですが、こんなふれあいができたのは初めてです……」このほど、金木相内分校に通の手紙が寄せられた。この手紙は、仙台・高通信制の軟式野球部キャッチャー後藤昇さん（37歳）から相内分校軟式野球部の工藤広行君に宛てられたものである。

話には「もう一つの甲子園」と呼ばれる全国高校定時制通信制軟式野球大会にさかのぼるが、青森県代表として出場した金木相内分校軟式野球チームは、大会三日目の八月十四日、東京・府中球場での三回戦で、宮城県代表の仙台・高通信制軟式野球チームと対戦した。試合中、ホームに突っ込んだ工藤君とキャッチャーの後藤さんがクロスプレー

となり、後藤さんは顔をスパイクされ、そのまま救急車で病院に運ばれた。病院で七針も縫う処置を終え、ちやうど試合が終了した時刻に球場へ戻った後藤さんに駆け寄って謝った工藤君に「試合中の偶然の事故です。次の試合も頑張れや」と優しく激励してくれた。スポーツマンの精神にふれた工藤君はうれしかった……。しかし、後藤さんのケガを思うと何んともやりきれず、はやる気持をりんごに託したものです。

後藤さんは手紙の中で、「同じ仲間同士、これを機会に学校単位で付き合っていきたい」と結んでおり、来春卒業する工藤君も、大先輩である後藤さんとは、これから長い付き合いをさせていきたい。と手紙を読みかえしています。



創立110周年を迎えた十三小学校



お祝いのことばを述べる教育長



PTAのアトラクションが式典を盛り上げました

五十六年からは、子供たちの体力づくりにと、十三海洋クラブを設立し、ヨット、カヌー、カッターなどでは、東北大会優勝、全国大会でも準優勝するなど、スポーツ活動の盛んな学校としても、県内外の教育関係者から注目されています。

表彰状
■歴代学長 葛西正憲、阿部季弘、沢田茂隆
■歴代PTA会長 有馬正年、八木健良蔵
■水年勤続教職員 浦田雪江、竹浪長蔵、工藤禮一、風晴一、小田桐泰一、越谷東一
■特別表彰 小山あぐり、感謝状 高橋信男、工藤武義、小山巖



▶ 59 ◀

法皇への道 (5)

興と高塚院

もう一つの山王道

霊地山王坊への道にもう一つあることは村民周知の通り。相内家並 佐藤慶治



山王坊・日吉神社に祀られている三猿

大先輩の家の前に掲示されている標識から左折又は右折して北進する法皇への道です。山王坊川に途中桂川と分れて、両側の丘陵に挟まれたたんぼ道は車は奥へ奥へと進みます。雨後だとハイカラな車ではちよつと無理です。丘陵の左側(西側)の笹畑遺跡や右側(東側)の赤坂遺跡などを語りながら正面の丘陵につきあたる老杉の山王鳥居で下車すると、山王の聖地なわけ

です。
昭和五十二年十二月に、東北大・東北学院大・秋田大の如上の三先生によつて、中世津軽安東氏の建立した神社寺院跡としての全国的に一躍脚光を浴びた遺跡です。

日吉神社の御神体

発掘に先立って十一月三

十日に松橋神官のもとに総代・村当局の関係者一同が列席し御蔵いの神事が挙げられた際、生きていうちにぜひ一度拜みたいと思つて、日吉神社の御神体を間近に拜する機会に恵まれました。菊の御紋章のまいている御厨子も拜見していました。何回か修繕されたよう

です。
御神体は衣冠帯の公卿の木像のお姿を冠してあります。天皇以下文武百官が朝廷の公事に着用する服装をしていられます。これは神主さんが神事を行なう場合の服装を思い出してくださればわかります。右手に笏(あるいは扇)を持つていられるのも左手の持つてくことと比べて見ればわかります。厚い畳の上どころか、はびんど左右に張つて威風堂々たるお姿です。眉や眼がきりつとつりあがり、口は真一文字に結ばれ、威厳をたたえて四方を風靡している表情をみていられます。思はず平伏させられてしまいそうです。私にはもう再び拜むことが出来ない

福島城主藤原秀栄公

でしよう。
日吉神社は俗称山王権現と呼ばれ、本社は滋賀県大津市にあります。オオヤマクイの神を主神とし、オオナムチの神を合祀し、神代から比叡山に鎮座した地主神だといわれていますが、わが村の日吉神社は、その別社として建立されたものです。次男に発掘のことを述べますけれど、中世の社は、約二十倍ぐらい東位になつています。
御神像から福島城主の藤原秀栄公の容姿を联想しました。平泉藤原清衡の子惟衡に子がなく、その子として育てられた安倍則任の後裔だといわれる秀栄公をかたどった御像ではないだろうかと思像してみました。山王は、三猿神が合祀されています。見ざる、聞かざる、言わざるを寓した人間の悪を嫌う教えをこめられた神です。古いものが二体盗難にあつていました。何とも情ない時代です。

な の 部

津軽のこころ 94

情は自分のため、情を人にかけておけば、それがぐつて自分によい報いがある。汝、汝だ、吾、吾だ、人は、おのれはおのれ、それぞれの都合があるという意。何事も三度、一回や二回失敗してもくじけてはいけません。三度までやり直せという意。七日痛んでも男の子持て、どうせ子どもを生むなら七日間苦しんでもよいから男を産めという意。
汝の物吾の物、吾の物吾の物、お前のものは私の物で、私の物は私の物という意。生半く、好いた同志の男女の仲を引き離すこと。なますは祝吉の料理につきまします。そのなますがまだ残っているうちに嫁が離縁するいう意。
鳴る腹ア下痢、ものごとには必ず原因があるという意。苗代は半作、①苗代田肥料分が不足するという意。②稲の半分は苗にかかっているという意。二つの意味がある。



助け合い資金にと社会福祉協議会を訪れた桜木町子供会のみなさん

金木高校相内分校 生徒募集

高等学校の定時制・通信制課程は、年齢や職業を問わず、働きながら高等学校教育を受けたい方々のための学校です。学習内容はもちろろん、卒業資格も全日制課程と同じで、卒業後は専門学校や大学に進学することもできます。

県立金木高等学校相内分校の入学案内

- 授業料は、年額 6,000 円で全日制の約 4 分の 1 です。なお入学生料は 200 円です。
- 毎月の納付金は、授業料を含めておよそ 2,700 円ぐらいます。
- 教科書は、無償配布。
- 出願者は所定の入学願書に必要な事項を記入し、青森県収入証紙(400 円)を添えて、調査書とともに出身中学校から提出してください。
- 出願期日 昭和59年 2月14日(火)から 2月20日(月)まで(日曜日除く)です。受付時間は、午前9時から午後4時までで、土曜日と 2月20日は正午までです。
- 学力検査 昭和59年 3月12日(月)午前 8時45分から午後 2時10分まで筆記試験を実施し、その後、全員に対して面接を行います。
- 合格発表 昭和59年 3月17日(土)午前 9時にそれぞれ出願した学校で発表します。
- 募集人員 男女 40人

善意ありがとうございます

バザー—益金5,320円を寄託
—桜木町子供会—

相内桜木町子供会では、このほど、クリスマス会と「不用品バザー」を開き、益金 5,320円を「歳末たすけあい資金」に役立ててほしいと、村社会福祉協議会へ寄託しました。

この益金は、読み終えた本や使わなくなったおもちゃなどを持ち寄って、それぞれ小使いの中から出しあったものです。子供会代表の山崎ゆめ子さん、斉藤美穂さん、秋田谷正樹くん(いずれも相内小4年)が、社会福祉協議会を訪れ、青山又一会長に直接手渡しました。

税のなんでも相談

—1月17日(火)—

税に関することなら、どんなことでも相談できます。

商工業者、村民のみなさん、お気軽にご相談ください。

とき 1月17日(火)10時から14時30分まで。

ところ 市浦村商工会

相談は無料で、税理士が担当いたします。

室内運動会は1月 22日に開催します

市浦村体育協会(島津典明会長)主催の第3回村民室内運動会は、1月22日(日曜日)午前8時30分から市浦海洋センターで開催します。

参加資格は、市浦村に在住する住民で、団体、階層別対抗とし、監督を定め、各競技ごとにチーム編成する。

体育協会では、実行委員会をつくって競技種目を検討していますが、気軽に参加できる楽しい運動会にする予定です。当日は、参加選手(応援者)の送迎バスが運行されることになっていきますので、積極的に参加するように呼びかけています。

競技種目が決まり次第おしらせしますが、市浦村教育委員会へ1月11日までに申し込んでください。



冬休み中の少年非行を防ごう

親子の対話

家庭では、親子の対話を多くし、何でも気軽に話し合える雰囲気づくりにつとめ、規律正しい生活を送らせるようにしましょう。

金木高校相内分校に
雑布100枚

親切
おばあさん
ありがとう

金木高校相内分校(須藤安一教頭)によります。親切なおばあさんから雑布100枚が届けられたので、感謝されています。この雑布は、紙袋に包まれて、同校玄関に置かれてありましたが、贈り主は不明。生徒たちは「親切なおばあさんが一生けんめい作ってくれたもの、大切に使い学校をきれいにしたい。」と喜んでいきます。袋の中には、生徒のみなさん、今年はおくがんばりまさし、ありがとう。今後ともよい社会人になるように、べんきょうして下さい。お祈り致します。私は何も出来ない老婆です、せめて校内のガラフスふきにでも思いまして雑布をつくりました。受け取ってください。幸いです。百枚です、老婆より(合掌)「原文のまま」一枚の添え書きが入っていました。

青少年の 豊かな心を育てよう

学校以外の場での団体活動は、社会性や責任感を養うよい機会です。地域を単位とする子供会や各種の奉仕団体などには、進んで参加させるようにしましょう。

小学生、中学生、高校生と年代の異なる青少年が参加している団体では、家庭や学校での生活とはまた違った体験が得られます。わがままのきかない厳し

性や責任感が養われ、将来社会参加をスムーズにさせる

他人を思いやる心

団体活動は 社会参加の第一歩

上下関係、一方では幼い者へのいたわり……。団体生活の仕組みやしきたりを身をもって知ることによって、社会

ことにもつながるのです。周りの大人も、育成者や指導者として青少年の団体活動に参加し、家庭や学校と連携を取り合って活動を盛り上げていきましょう。

地域に根ざした青少年の団体活動のために

□ 団体活動の紹介パンフレット、加入の手引きなどを作成して配布する。

□ 未加入の青少年を対象にした野外活動や文化活動を開催する。

□ PTA活動や婦人会の活動との連携を図る。

□ 公民館やスポーツ施設の所在地、利用方法、活動ぶりなどをPRする。



寝たきり老人の看護法

お年寄りに
いたわる気持ち

相手の身になって考える
—これこそ、寝たきりのお年寄りを看護するときには、最も大切なポイントでしょう。

まず、自分がその立場だつたらどうしてほしいか、考えてみてほしい。次に、いくら相手の立場に立ったつもりでも、まだ食い違いがあるはずだとして、さらに一歩距離をおいてみるのです。その上で、食い違いを埋める努力をする

相手の身になって考える

▼基本的な心がまえ

「寝たきりのお年寄りを心からいたわり、看護する気持ちは、ここで初めて生まれるといえるでしょう。

相手のためにより良く考えてしたことも、気に入ってもらえないと気づきやすい雰囲気になるのであります。しかし、そんなときにはとにかく無理抜きで耐えるようにしましょう。そんなつもりではな

つた」などの言い訳は、かえってお年寄りの心を閉ざしてしまふ原因になることがあるからです。

繰り返しの話にも

聞き上手になる

年をとって、ただでさえ弱った心や体には病気がおいかぶさると、寝たきりのお年寄りの胸中には不安と寂しさが渦巻いています。つい話も愚痴

つぶくなったたり、繰り返しが多くなったりしますが、周囲の人は「聞き上手」になることと「聞き下手」なことを区別して、よく聞いてあげてください。

「聞き上手」などと言わないこと、何十回同じ話を繰り返そうと、話すというよりは、返事を信頼し、心を許している証拠なのだということを知ってください。

何より大切なのは、お年寄りから、自分で回復しようとする意欲を引き出すことです。そのための慰めや励ましができるのも家族ならではのことで

窓の戸籍

（C）に（H）は赤（Y）A

佐藤 文男さん（相内）

長女 暎希奈ちゃん（10か月）

お父ちゃんは暎希奈のことかわいひ、メンコイ…ノといっつホッペにキッスしてくれるのノ、暎希奈もきらいじゃないから…ネッノ



梶浦 安男（十三）
有馬美子（青森）
川合 金美（小泊）
三橋たき子（磯松）

藤田 若美 磯松 俊一
工藤 世幹（十和田） 人志
お誕生
ご結婚

高田 たよ（十三） 86歳

おくやみ
小山内芳親（十三）
長谷川あや子（鯉ヶ沢）
秋田 正之（車力）
小寺 朱美（十三）
三浦 邦彦（相内）
中川すみれ（五所川原）
中村日出春（十三）
遠藤由美子（東京）
高橋 徹（十三）
長谷川美子（木造）
一戸 透（青森）
山内 正子（相内）
鎌田 和廣（相内）
小野 明美（青森）
千葉 精二（宮城）
木村 秋子（磯松）
山本 明（横須賀）
柳引 愛子（臨元）